

都市に於ける幼児の健康増進 施設について

京都市永觀堂幼稚園 牛 島 隆 則

本篇は昭和九年十一月大阪市に於て開催せらるゝ市立の全國保育大會に吉備保育會より提出せられたる「都市に於ける幼児の健康増進上效果ありと認められたる施設事項を承りたし」との問題につきての答解にして何れ全國保育關係者よりそれぞれ有益なる答解ある筈ならんも、本園は創立最初より健康第一主義を目標とし永觀堂境内の環境と施設を應用して滿四ヶ年餘の實蹟に鑑み、聊かなりとも御參考になれば幸ひと存じ獨自の立場に於て不敏をも顧みず、貴重なる本誌の餘白を拜借して本問の答解、若干の所見を加へ拙文を綴りたる次第なり、依て不都合の點あらば先輩諸賢の御教示を切に希望して止まず。

一 緒 言

從來我國に於ける幼児に對する養護施設其他に關しては一般に等閑に附せられ、從て其進歩遅々として進まざりしが最近に至り幼児教育の必要を認められ、幼児を離るべからざる母の教育の必要なる事が盛んに主張され、母の會とか母の再教育とか色々の名稱の許に母に關する諸般の研究發表などを見るに至れり。

先般、皇太子殿下御降誕奉祝の爲め『子供の愛護と母親の爲めに使へ』との思召で御下賜の多額の金員により、恩賜財團愛育會なる者の創立を見るに至れる事は如何に幼児の愛護が國家將來の爲め必要なるかを立證するに足る。

我が保育界に於ても最近幼児の健康増進に關する問題が色々の會合の都度研究せられつゝある事は、幼児教育に關係せ

る吾々共の大に欣喜に堪へざる處なり。昭和七年十月には京都市に於て開催せられたる關西保育聯合大會の際に大阪市保育會より

『保育上健康増進に就きて最も效果ありと認めらるゝ事項特に都市幼稚園に於て夏期休暇中の保育に其施設を承りたし』の問題が提出せられ、當時各保育會より其れく有益なる答解が與へられたるなり。更に本年十一月大阪市の於て開催せらるゝ豫定の全國保育大會に吉備保育會より

『都市に於ける幼児の健康増進上效果ありと認められたる施設事項を承りたし』

と云ふ問題が提出せられたり、今回も全國各保育關係者より有益なる研究事項の發表あらんことを大に幼児教育界の爲め祝福して止まざるなり。

二 煤煙の大阪

今回の主催地は大阪市なる故、當市の環境が幼児に對し如何に不健康地であり、如何に非衛生的なるかを未だお承知ない方々の大體諒解し置かれる事は本問題の研究上無益ならざるのみならず、大阪市保育關係者が日夜幼児の健康増進に關し、如何に苦心し頭を悩まされつゝあるかを充分察知し得る材料にもならんかと思ひ單簡に一、二の事項につき左に述べる事とす。

自分は二十年餘も大阪砲兵工廠に在勤せし故、如何に彼の煤煙や塵埃なきが保健衛生上に惡影響を及ぼす者なるかをよく／＼承知せるなり、今左に一例を示せば

日露戰爭當時の砲兵工廠は國を賭しての戰爭の事なれば、彈藥其他各器の供給は晝夜兼行しても尙且つ戰場の要求に應ずる事能はざる狀態であり、従つて工場は土地の許す限り擴張に擴張を進め其結果煤煙や塵埃は遠慮なく飛散し、無

論當時は煤煙や塵埃なごに關しては毫も眼中におかざりし事は事實なるも豈計らんや、戰爭終了後一、二年を經過する間に、工廠内に數十餘年の星霜を経たる美事な松樹なごは、無慘にも殆んど大部分煤煙の爲め枯死の已むなき最後に到達したるなり、こゝに於て斯く迄に煤煙が樹木を害するならば、吾々従業員にも如何に有害なるかを痛感させられ、依て早速煤煙防止問題の研究に進みたる事實を有せるなり。

大阪に住まざれば分らぬ事實なるが、丁度日露戰爭中、日夜工廠勤務終りて家に歸り、洗面の折、鼻の中は丸で煤煙を以て充たし、たんを吐けば丸藥の如き黒き柔き塊出づ、最初は如何にも氣味悪く軍醫に聞いて見れば『それは煤煙の塊りだから心配はいらない』この事にて初めて安心せる如き経験もありき。

當時自分には一人の男兒(三十六年六月生)あり、ツクム大阪は幼兒を育つる場所ならざる事を痛感せしも、大切な御奉公の身にて自分の我儘身勝手云ふべきでない事を決心し、遂に二十年餘の永き年月を砲兵工廠の煤煙の中で暮す事となりたるなり、そこで大阪の幼兒が如何に不健康の環境にあるかは充分に察知し得る次第なり。

更に大阪市に於て先年名古屋市衛生博覽會に發表せる室内侵入煤煙、塵埃等の調査成績は左記の通りにして一層具體的に大阪市の煤煙や塵埃の市街地なる事が明瞭になると思ふ。

(大坂市室内侵入煤煙調査表)

區分	成績	
	煤煙粒數 (平均數)	塵砂數 (平均數)
住宅地帶	五四八〇	六四六二
商業地帶	六二九五	七五六五
工業地帶	二三八八三	二二四五五
		四六三三八
		計
		一一七四二
		一三八六〇

本表の平均數は家屋の窓前二尺の位置に於ける一〇〇平方
 厘米に一日間の蓄積量なり。

この成績表によつて見れば大阪市の幼兒は毎日々々本表が
 示す如き煤煙、塵砂の内に二六時中起居し、一方交通發達の
 關係上、電車、自動車等の絶へざる喧噪の内に生活しつゝあ

る状態なる故、如何に幼児の健康増進の困難なるかを察知せらるゝなり。

三 都市の幼稚園

次に都市に於ける幼稚園の一般状況、主として大阪市につき單簡に記述すれば

(一) 大阪市の中央部——土一升金一升の高價の地價を有する處に於ては元より園舎の地域も狭き範圍に制限せられ、殊に小學校に附設せる幼稚園に於ては其傾向著し、然して園長は小學校長の兼務なるを以て勢ひ小學校中心に取扱はれ屢々犠牲となる爲めに幼稚園の蒙る迷惑も少なからず。

(二) 地域狭き爲め思ふ存分運動する事能はず、室内にても附近の高き建物に制せられ、換氣、採光充分なるを得ず随つて必要に應じ晝間電燈を點ぜざる可からざる處も少なからず、これ等は地方人の想像も及ばぬ珍らしき現象なり、晴天の時雖も室の内外を交代して使用せねばならぬ關係上落ち付きて何時迄も好きな運動具や玩具なごを使用して遊ぶが如きは不可能なり。

(三) 偶々一日一組の幼兒を靜かに心行く迄遊ばせんじ計畫をなし二階の屋上なごに行き或る程度迄幾分の刺戟をさけ満足と與へる事あるも、晴天の時なご運動の程度によつては汗の出る事あれば、煤煙や塵埃なごで汚れたる手にて顔を拭く故に、顔も手も眞つ黒くなり整容の際なご姿を寫してお互に大笑をなす事なごは屢々遭遇する事實なり、故に雨後庭園の乾くを待つて昇るを常とするなり。

(四) 以上の如く繁華なる地程塵埃多く随つて諸種の微菌多く散亂し爲めに虚弱兒童並に抵抗力の少なき一般兒も傳染性疾患なごに侵されるこゝ少なからず。

(五) 夏期の施設として僅か一週間位にても新鮮の空氣に浴し臨海の林間保育を實施し自然に親みたる結果、多きは

疳を増加し、少きも〇・二疳まで殆んど全員の増加を見一人の減少者なかりし事が關係者一同に非常な満足と與へられたる實例もあり。

之を要するに他の都市にあつても大體に於ては大同小異ならん。

四 本園の効果

昭和五年九月永觀堂幼稚園を創立するに當り、幼兒の健康増進を第一主義として都市の虛弱兒を一人にても健康に導く事を以て本園の使命の一つとせざるなり、然して都市に於ける虛弱兒童は毎年増加の趨勢にありて、自分が調査せし結果によれば全國五大都市（東京、大阪、名古屋、京都、神戸）中兒童の健康狀態第一位を占めつゝある京都市にありても約三十%弱に相當せるなり、然して幼稚園時代の虛弱兒を健康に導く事は保育に従事せる吾々お互の重大なる任務であり責任とする處なり。

本園は創立後滿四ヶ年餘を経過せし間に於ける健康増進上に對する幾多の實例を有するも、茲には單に抽象的に效果ありし事項のみを示せば

普通一般の虛弱兒は勿論、食慾不進、血色不良、健康不充分、乗物不能、睡眠不足、腸胃病、歩行不自由、常習的風邪、便通の不規則等色々身體上缺陷ある者も入園後月日を経過するに隨つて、虛弱兒は健康兒となり、食慾は増進し、血色は良くなり、如何なる乗物にも酔はなくなり、夜分はよく熟眠し、腸胃は健全となり、歩行は自由となり、風邪にかゝらぬ様になり、便通は規則正しくなり、從て體重は増加し見違へる位に健康體となり、保護者より衷心からの感謝の辭を受ける事は如何に本園の環境並に施設が幼兒の健康増進上に適當せるかを立證する處なり。

之を要するに本園の特長とする大自然の變化ある廣々した運動場を持ち、茲に於て充分の日光に浴しながら

新鮮なる空氣を滿喫し

充分なる紫外線を受け

榮養食の供給を受け

思ふ存分の運動をなす

等幼児の健康増進上必要にして缺くべからざる幾多の要素ミ、本園保育の實際主義ミ相待つての結果に外ならざるなり。

五 本園の施設

幼児の健康を増進せしむるためには、體育、衛生、精神の三方面の保育ミ、その幼稚園の施設ミ環境竝に醫師の連絡ミ相待つて各々適切なる手段ミ方法を講ぜざる可からず、本園に於ては以上の主旨に基き室外保育に重點を置き室内使用の如きは、朝禮、晝食雨天其他已むを得ざる場合の外は勉めて之を避け居れり、今本園に於ける健康増進上效果ありミ認めたる施設につき其概要を示せば左の如し。

體育方面

平時保育

(室外保育に
重點を置く)

- (1) 自然を取り込める約千餘坪の運動場
- (イ) 南運動場(平坦部、緩斜面部、急斜面部、小丘、小川、花壇等より成る)
- (ロ) 東運動場(平坦部より成り、東側の急斜面には各種の大樹木あり、北部には鶯の溜と小川あり)
- (ハ) 北運動場(緩斜面には各種の大小樹木、其外小川、プール、放生池の一部より成る)
- (2) 主なる運動具の施設(砂場、棒登り、滑臺、ブランコ、大鼓橋、懸垂、シーソー、障礙通過、プール等)
- (3) 大床上積木遊び

(4) 園藝

(5) 室外掃除(運動場の掃除、草むき、水まき、石拾ひ等)

(6) 東山登り毎月の行事とす、其外エイ山登り、郊外遠足、秋季運動會等

(7) 豊富なる天然物利用(自然物採取、昆蟲採取等)

夏期林間保育 (七月下旬より八月中旬迄約三週間)

衛生方面

(1) 榮養供給 (偏食矯正並健康増進の目的)

(2) 齒の検査 (1家庭調査 2醫師の検査 3醫師の治療 4簡易治療施設計畫中)

(3) 身體検査 (體重、身長、胸圍の測定、檢溫、檢便)

(4) 太陽燈の使用

精神方面

(1) 朝禮 (大正天皇御大典記念御下賜朝拜殿に於て毎日午前十時卅分、國歌合唱、御眞影奉拜)

(2) 本山參詣 (毎月二回參詣し、管長のお話)

(3) 平安神宮參詣

(4) 精神訓話

以上の施設を利用して先づ幼児の脚を強くする事に留意し、之が爲めには思ふ存分に運動し得る廣き運動場を利用し殊に屢々斜阪を上下させる事は、幼兒時代に最も多き扁平足矯正上且つ脚部の健全を計る爲め、必要の條件なるを以て園舎と運動場を連絡するに適當なる斜阪を以てせる關係上必ず毎日十數回以上上下せざるべからず、又運動場には適當なる緩傾斜地もあれば、又急斜面部もあり、或は自然的の滑臺として應用し得る斜阪其他砂場、小川、プール、滑臺、ブランコなどを使用して殆ん終日時間の立つのも忘れて遊びに熱中するの状態なり、一度園に踏み入るや眞の樂園として毎日々々登園するを唯一の樂みとせる状態なり。

東山登りは毎月の行事とせるが往復約二時間行程にして、甚しき急斜阪もあれば平坦地もあり又適當なる斜阪もある、頂上には京都市の大部分を展望し得る絶好の場所ありて幼兒に取つては東山登りは唯一の娛樂とせり。

夏期は家庭に於ても幼児の保育に困る時であり、又休暇になれば幼稚園の駄も往々破壊せられる恐れあるのみならず、一方夏期は身體の鍛練をする好季節でもある關係上、全然長き夏期休暇中保育を中絶する事は甚だ遺憾なるを以て、本園では昭和六年夏より園児を中心として小學校兒童參加の許に七月下旬より八月中旬迄約三週間、夏期林間保育を實施し栄養食を供給し來れり、一般保護者は夏期休暇中林間保育の延長を希望せるもの甚だ多く何れ研究の上其希望を充當せんこの企圖を有し居れり。

次に幼児の給食の事であるが、中流以上の子達の栄養障碍は偏食から來る場合が非常に多い、食物一種で完全なるものは殆んどない、偏食すれば自然ある一部の栄養素に不足を生じ従つて障碍を起す事なる、故に副食物はその種類の可成多くして食物に變化あらしむる事が必要なり。好き嫌いの偏食はなか／＼矯正が困難で之には種々の方法もあるが、要するに幼稚園の給食が比較的有効なる事は過去四回の林間保育の際に於ける給食の實績が證明せる處なり、依て本園では去十月一日より栄養食を與ふるに共に偏食を矯正するに極めて都合よき方法なる事を信じ萬難を排して一週六日間の給食を開始せる次第なり。

次に大阪市衛生試験所にて大阪市に於ける幼稚園の幼児のお辨當につき調査せられた結果を標準栄養價に比較して、カロリーも蛋白質も充分あるもの、熱量と蛋白質の何れか不足せる者、カロリー、蛋白質共に不足して最も悪いものの四種に區分してその割合を出して見るに左の如き結果となり。(参考の爲め掲ぐる事にす)。

幼稚園御辨當の栄養量調査成績表

A	成績		調査幼兒數		
	調査幼稚園	調査幼兒數	完全なる者(%)	カロリー不足の者(%)	蛋白質不足の者(%)
		一〇一	四八・五	五・九	三二・七
					カロリー蛋白質共に不足の者(%)
					一一・九

六 虚弱兒の取扱

普通幼稚園に於ける組の編成は大體一年保育、二年保育、三年保育による年齢別を採用せり、然るに都市幼兒の一般狀況を見るに虚弱兒の數は相當多數に達せる狀態なり。元來人間一生の健康の基本的素質は幼兒期に於て養成せざるべからず、從て幼兒期に於ては虚弱兒は勿論、一般幼兒もより以上に健康増進を必要とする時期なる故、虚弱兒の多き都市幼稚園に於て同一の組に於て之を全然同様に見做し同一施設の許に取扱ひを進める如きは將來大いに改善を要すべき事項とす。

依て都市の幼稚園に於ては必要に應じ、健康幼兒標準に基き虚弱兒組と普通兒組に區別し、虚弱兒組にあつては大自然の中に自由遊びを獎勵し、休憩の場合には靜養室を使用し、園醫は時々診察を行ひ萬遺憾なきを期する迄に實際的活動を希望して止まざるなり。

虚弱兒を決定するに當りても家庭と密接なる連絡を取り、幼兒の入園前に於ける既往症（麻疹、百日咳、水痘、急性耳下腺

平 均	B	C	D	E	F	G	H
一一・二	九九	一三三	一四九	二五三	一五〇	一一一	二六六
四五・九	四八・五	三六・八	二八・八	三四・八	四〇・〇	七〇・三	五九・四
一〇・〇	三・〇	一九・五	一一・四	一九・四	一二・七	三・六	四・五
二三・八	三六・四	一六・六	二六・二	一五・〇	二五・四	一四・四	二三・三
二〇・四	一一・一	二七・一	三三・六	三〇・八	二二・〇	一一・七	一二・八

炎、デフテリー、猩紅熱等）、同一疾患に屢々罹り易い傾向の有無（急性氣管枝肺炎、急性扁桃腺炎、急性中毒性腸炎等）、異嗜症及偏食等（壁、土、炭、けし炭、マッチ、生米等を好んで食する）、特異體質（敏性體質）（玉子、蟹、海老、鯖等を食して濕疹の出る者、牛乳を飲んで下痢するもの）等の身體上に關する狀況を調査し、幼兒取扱上の參考に資する事が必要なり。

都市の普通家屋は其構造上通風、採光等實に不衛生的に構成せられ、發育旺盛なる幼兒には甚だ不適當なるを以て家庭との連絡を密にし進んで之が改善方法にまで連絡を進める勇氣が必要である、要するに幼稚園のみではなかく健康の増進並に體質の改善を完成せしむる事は難事と云はざるべからず。

幼稚園は小學校、中學校等に比し一層醫師と密接なる關係を有するの必要あるは論を俟たず、常に醫師の指導の許に幼兒の健康狀態の程度に應じ運動の程度並に保育上に於ても適當なる取捨を加へ遺憾なきを期せざるべからず、從來の如き形式的の身體検査を行ふが如き習慣は幼稚園にあつては斷じて中止せざるべからず、尙一步進んで保姆の一人位は看護學を修得し、看護婦以上の幼兒に對する看護法を會得せしめ置くの必要あり、其實現が出来る迄は普通看護婦を附屬せしめるの必要を痛感する次第なり。

七 應急改善策

都市の幼兒を適當なる郊外に引率して保育する事の健康増進上有效なる事は幾多事實の證明する處なるが、さて之を實施するには幼稚園によつては經濟上之を許さざる關係あるを以て、都市の既設幼稚園にして研究改善の必要あるものは應急策として次の如き事項につき之を實施するの舉に出づるを必要とす。

- 一、園舎内外を出來得る限り有効に應用する事が必要なり、神戸幼稚園の如きは最も有効に利用されある一例ならんか
- 二、幼兒の發育に適應する運動具を設備し以て幼兒の興味を喚起しつゝ、基本筋肉の發達を助長せしむる如き施設の必

- 三、保育室、遊戲室等は換氣ミ採光に遺憾なからしむる如く改造する事
- 四、塵埃多き處は可成二階以上の屋上なごを利用し自由に遊び得る様にする事
- 五、洗面所、湯飲場、便所等の設備を遺憾ながらしむる事
- 六、ラヂオ體操、室外運動を奨勵し、勉めて日光に露し室内保育を極力減少する事
- 七、經費の許す限り、なるべく郊外進出を奨勵する事

八 結 論

都市幼稚園の多くは以上述べたる如き環境ミ施設にあるを以て、如何に優秀なる保姆を採用しても幼児の健康を増進せしむる事は頗る難事ミ云はざるべからず、この難事を打解するためには從來の惡習慣たる園長兼務制を全廢するミ共に、室内保育竝に小學校準備保育の弊を一掃し、一方交通機關を利用し郊外出進を企圖するにあり、之が實施は經濟上許さざる處もあるを以て幼児の無賃乗車の制度を設くる事を市當局に交渉し之が實現を期するにあり。

一方都市に於ける虛弱兒童は日々増加の傾向あるに鑑み、幼稚園時代に之を減少せしむるの手段を根本的に講ずる事が目下の急務なり、小學校時代の虛弱兒童を收容して健康増進を企圖する如きは、最早や時機遅れの感なき能はず、依て彼の大阪市經營の六甲郊外學園（六甲若樂園の附近にあつて、大阪市小學校在籍兒童にして三年以上の虛弱兒童を約三ヶ月を收容期間ミして定員約八十名を收容し、全員寄宿生活をなし設備萬端遺憾なし、其效果顯著なり）の如き施設を幼児にまで擴張せしむる事は幼児教育の任に従事せる幼稚園關係者の今後大に努力して之が實現を期し以て、健康兒を小學校に送る事が重要な義務の一つなる事を忘るべからず。